NO.216 農地隣接地域の子どもの遊び場における行動範囲と認識範囲の関係
–愛知県碧南市立日進小学校を事例として–

井澤研究室（インテリア・プロダクト分野）　A20AB122　三輪風花

1.　背景・目的

愛知県碧南市は農林水産省指定の代表的にんじんの産地であり、「へきなん美人」という特産のにんじんがある。地域の特産物が新たな生産者に受け継がれていくためには、地域住民が特産物に興味や関心がなければならない。さらには、地域の子どもたちはにんじんの農地に愛着や関わりはあるのか、意識の中にあるのかということを把握する必要がある。本研究の位置づけとして類似研究にイメージマップを用いた研究 1) はあるが、本研究は農地隣接地域であること、行動範囲と認識範囲の比較をしているところに特徴がある。

この研究の目的は、農地隣接地域において子どもの遊び場や遊び内容から行動範囲及び認識範囲を分析することにより、関係を明らかにすることである。

2.　行動範囲調査

2.1 調査概要

2022 年の 12 月に碧南市立日進小学校の 4・5 年生 108 人に行動範囲に関する調査を行った。日進小学校は全校児童 354 人で 2)、学区の南東半分を農地が占めている。また、学区は矢作川と隣接している。調査内容はアンケートと地図へのプロットである。アンケート項目は主に、よく遊びに行く場所や遊び内容、好きな場所や苦手な場所、またその理由で、加えて自宅と学校からの道順や、よく遊びにいく場所などを地図にプロットしてもらった。

2.2 調査結果

学区内での学校や遊び場の位置関係をまとめた（図 1)。

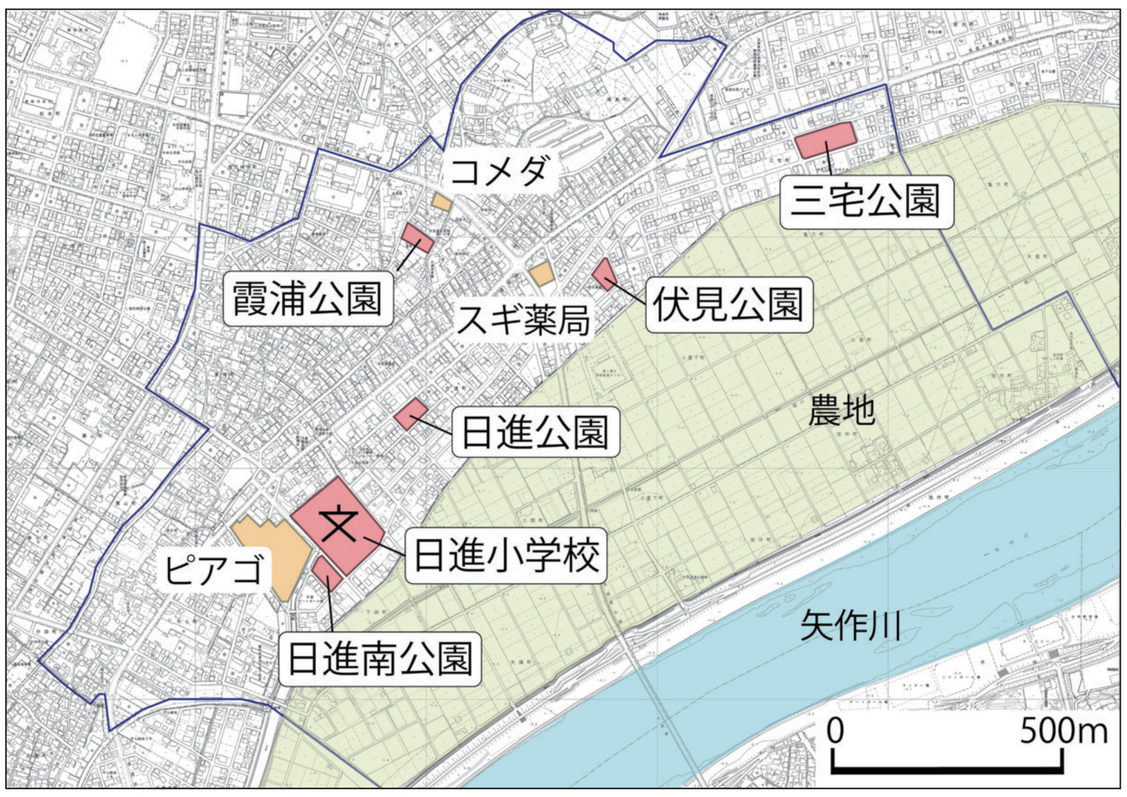

図1　学区内の位置関係

遊び場と遊び内容の関係では、主に日進小学校、日進南公園、三宅公園、霞浦公園の 4 つの遊び場を多くの子どもが利用している。日進小学校と日進南公園では球技が最も多く、三宅公園と霞浦公園では鬼ごっこやかくれんぼでの遊びが最も多いことが分かった（表 1)。

表 1　遊び場と遊び内容の関係　　n=126

	特徴	鬼ごっこ かくれんぼ	球技	遊具	その他	合計
日進小学校	遊具が多く、一番広い	5	17	6		28
日進南公園	学校から一番近い	8	14	7	1	30
三宅公園	学校からは遠いが、開放的	15	5	7	5	32
霞浦公園	開放的であるが、遊具は少ない	15	5	3	4	27
日進公園	周りに木が多く、閉鎖的	1		2	3	6
伏見公園	周りに木が多く、閉鎖的	2		1		3

一つの事例として、三宅公園で遊ぶ子どもの自宅と遊び内容の関係をまとめた（図 2)。鬼ごっこ等は全体的に分布しているが、遊具は 500m 前後に集中している。球技やその他の遊びは 500m 以上の距離に多く分布されている

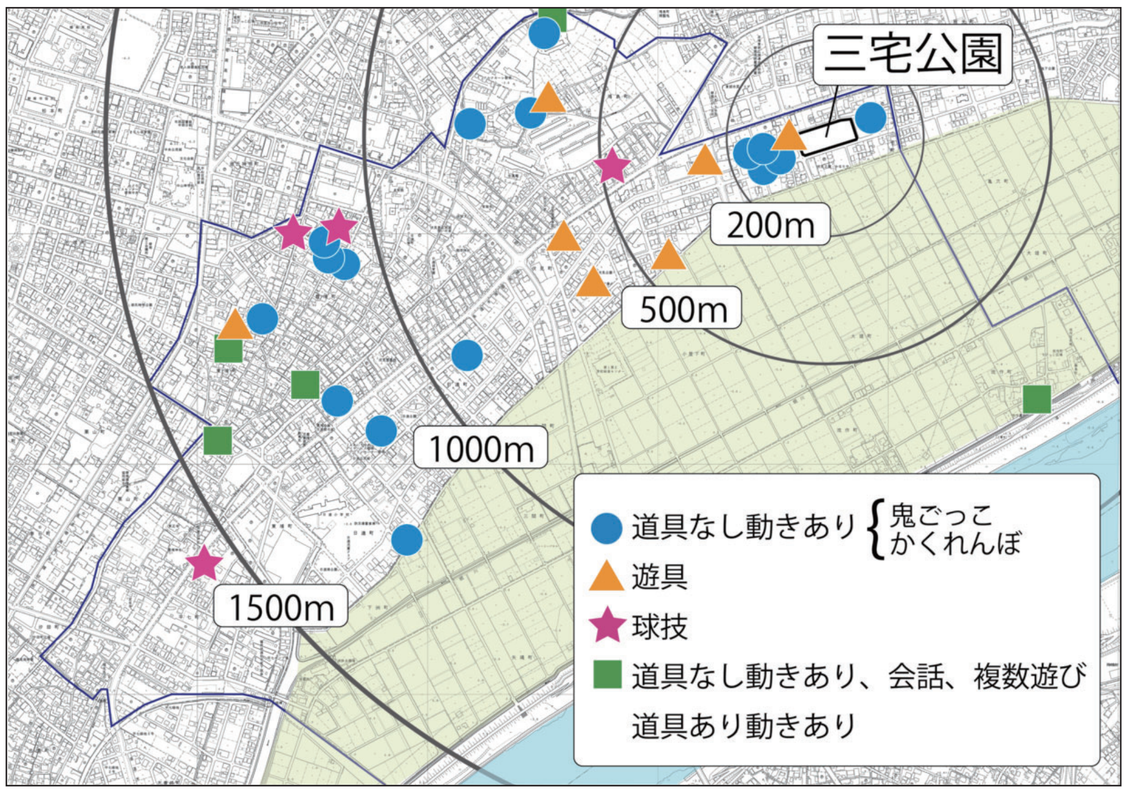

図 2　三宅公園における自宅と遊び内容の関係

自宅と移動手段の関係では、500m あたりから自転車の割合が増え、1000m 以降は自転車の割合が約 85% であることが分かった。

遊び場の好きな理由として「遊具の種類が多く、広いため色んな遊びができる」と回答した児童が多数であったことから、遊び内容が限定されないという要素と、開放的な空間であることが遊び場選択に大きく関わっていると考えられる。また、農地との関わりは見られなかった。

3.　認識範囲調査

3.1 調査概要

2023 年の 10 月に同じく碧南市立日進小学校の 6 年生 49 人に認識範囲に関する調査を行った。調査内容はイメージマップとアンケートである。イメージマップでは、よく遊びに行く場所や好きな場所の名称を 3 つあげてもらい、それに加えて学校と家の合計 5 つが枠の中に入るように地図を描く方法とした。また、その周辺にあるものをできるだけ多く描いてもらうよう声かけを行った。アンケートはへきなんにんじんと畑に関する選択式の質問 7 つと記述に関する選択式の質問 7 つと記述式の質問 1 つの簡易的なものである。

3.2 出現要素による密度の違い

枠内の要素密度が80%以上の地図を「高」、30%以上80%未満を「中」、30%未満を「低」と分類した（図3〜5）。密度が上がるにつれ、道路と住宅を多く描き込む児童が増える。遊び場の出現率が最も高いのは「中」であった。

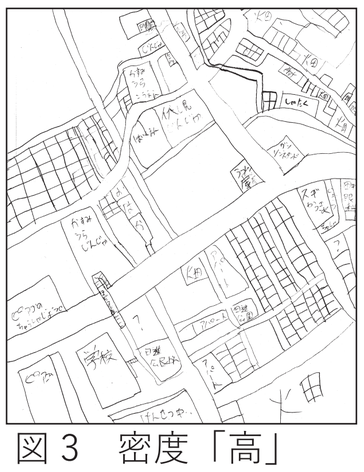

図3　密度「高」

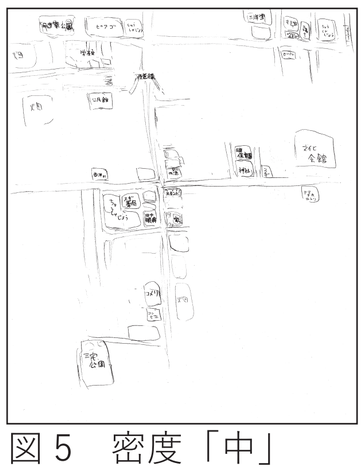

図5　密度「中」

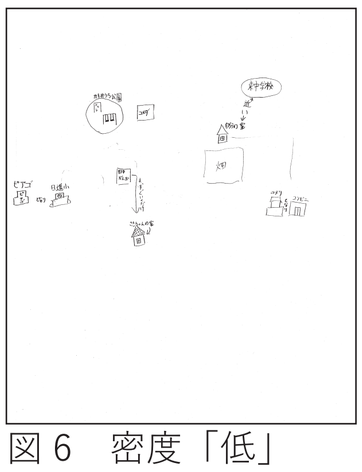

図6　密度「低」

3.3 場所の用途による出現率の違い

全体における遊び場の出現率は91.8%で、公園の出現率は87.8%であった。よく遊びにいく場所や好きな場所3つの内に記載したことを「名称記載あり」、地図に描き込みがあることを「地図記載あり」として、場所による出現率の違いを比較した（図6）。

霞浦公園と三宅公園は「名称記載あり、地図記載あり」が最も多いが、日進南公園は「名称記載なし、地図記載あり」が最も多い。日進南公園は学校の隣にある公園であるため、児童の記憶に残りやすいことから名称の記載がなくても地図に描き込む児童が多いのではないかと考えられる。また、名称の記載が少ない・記載がない日進公園と伏見公園も、一定数地図に描き込まれていることから、場所として認識はされているものの遊び場としては選択されていないことが分かった。

商業施設は公園と比べて名称の記載がなくても描き込まれることが多い。その中でも「スギ薬局」は、名称の記載は0%であるものの出現率は30.6%であった。

農地の出現率は32.7%、川の出現率は20.4%であった。しかし描き込まれた農地のほとんどが住宅地と矢作川の間にある広大な農地ではなく、住宅地の中にある畑や田んぼであった。広大な農地の先にある「矢作川」を描いたのであれば手前の広大な農地の描き込みがあるのではないかと推測したが、描き込んだ児童は1人だけであった。農地の記載があるイメージマップの出現要素の密度の内訳は、「高」が8人、「中」が7人、「低」が1人である。それぞれ分類した密度に対する割合は「高」が47.1%、「中」が30.4%、「低」が11%であることから、要素の密度が高ければ高いほど農地の出現率も高くなることが分かった。

3.4 アンケートからみる農地との関わり

碧南の特産物がにんじんであることの認知率は100%であった。また、学校の近くににんじん畑があることを知っているかという設問には、65.3%の児童がはいと回答した。にんじん畑がある方面に行くことがあるかという設問には、26.5%の児童がはいと回答し、散歩や用事がある際に通ることが多いことが分かった。畑に対して思っていることや感じていることを記入する設問には、「臭いが気になる」という記述が比較的多くみられた。特産物をであるにんじんに対しては批判的な記述はみられなかったものの、生産している農地には記述があることから、特産物自体には愛着があっても、生産している場所への愛着は全体的にみてあまり見受けられなかった。

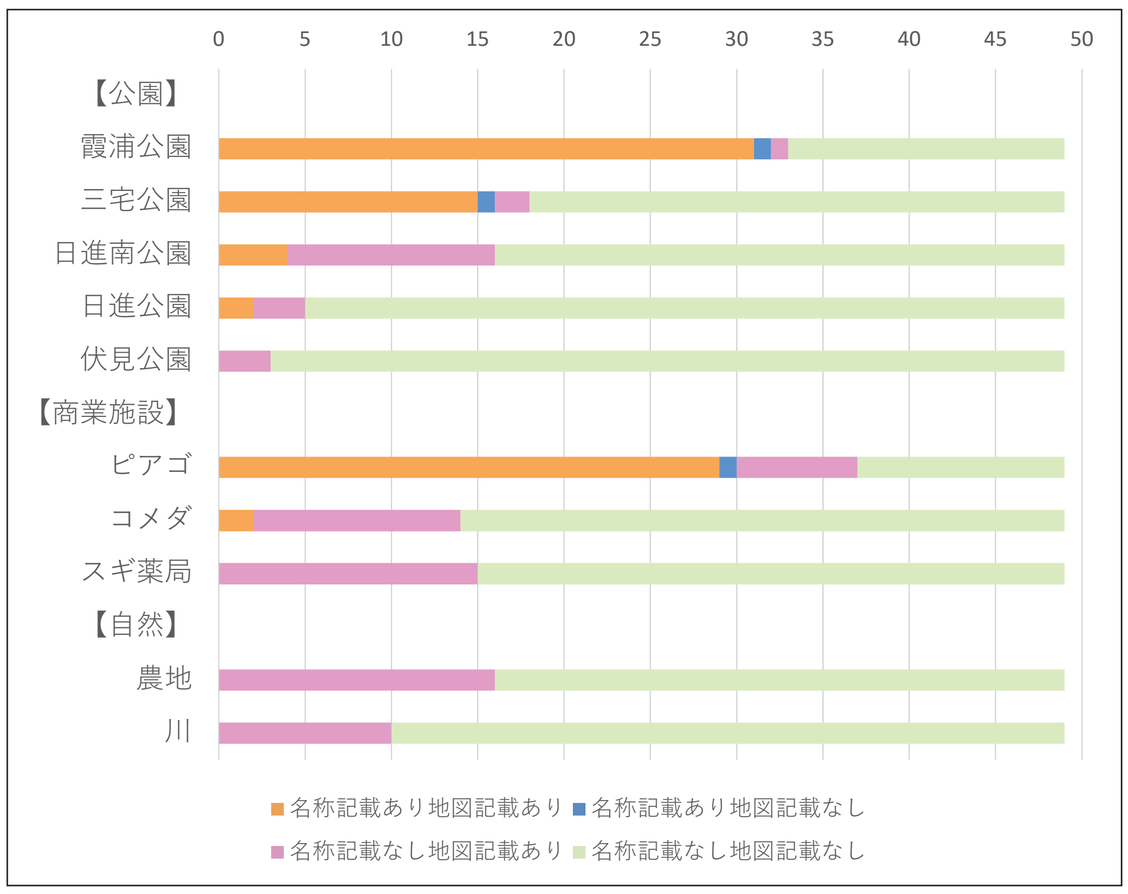

図6　場所の用途による出現率の違い

4.　行動範囲と認識範囲の関係

4.1 よく遊びにいく場所や好きな場所

行動範囲の調査では「霞浦公園」、「三宅公園」、「日進南公園」の順に一番よく遊ぶ公園としてあげられた。また、好きな場所としてもこの3つの公園はあげられた。認識範囲の調査でも同じく「霞浦公園」、「三宅公園」、「日進南公園」の順によく遊びに行く場所や好きな場所としてあげられた。遊び場選択において遊び内容が縛られないこと、広々とした開放的な場所であることが重要な要素であると分かった。

4.2 農地

行動範囲の調査では農地との関わりが見られなかったものの、認識範囲の調査のイメージマップでは描き込みがあったことや、アンケートでの回答から半数以上の児童が学校の近くににんじん畑があることを認知していることが明らかになった。しかし、73.5%の児童が畑のある方面に行くことがないという事実から、地図に描き込みをする児童が少なかったのではないかと考えられる。

5.　まとめ

本研究では、地域の子どもたちの農地や特産物に対する愛着や関わりについて視覚化することができた。「日進南公園は学校の隣にある公園のため、記憶に残りやすいことから、名称の記載がなくても地図に描き込む児童が多いこと」「イメージマップに描き込まれた農地のほとんどが住宅地と矢作川の間にある広大な農地ではなく、住宅地の中にある畑や田んぼであったこと」「イメージマップでは、本来広大な農地がある場所が空白で何も描き込まれていなかったり、矢作川と住宅地が繋がっているような描き方が多かったりしたこと」これらのことから、住宅地と分離している農地隣接地域では、生活空間から離れている場所である農地を子どもに意識や認識させることは容易ではないと考える。また、特産物に愛着があっても生産している農地とは直接的な関わりを持つことが難しいということも、愛着が形成しにくい一つの要因として考えられるのではないか。

1) 和田幸信（1988），「イメージマップからみた子供の生活空間とその認識に関する研究」『都市計画論文集』23巻，p169-174
2) 碧南市役所 教育部 学校教育課“小中学校児童生徒数一覧”愛知県碧南市 2023-5-29. https://www.city.hekinan.lg.jp/soshiki/kyouiku/gakko_kyoiku/school/4762.htm